

岡山県感染症週報

2011 年 第 39 週 (9 月 26 日 ~ 10 月 2 日)

岡山県では『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2011 年 第 39 週 (9/26 ~ 10/2) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

報告はありませんでした。

■定点把握感染症の発生状況

- RS ウイルス感染症は、前週とほぼ同数で、9 月下旬としては患者が多い状態で推移しています。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、9 月下旬としては患者数が多くなりました。
- 手足口病は、わずかに増加し、真庭地域では再び感染症発生レベル 3 になりました。
- 流行性耳下腺炎は、全県では減少したものの、備中地域では再び感染症発生レベル 2 になりました。
- インフルエンザは、患者報告がありませんでした。

1. **RSウイルス感染症**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同数で (定点あたり 0.30 → 0.33 人)、9 月下旬としては患者が多い状態です。
2. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、9 月下旬としては患者数が多くなりました (定点あたり 0.50 人)。突然の発熱と体のだるさ、咽頭痛によって発症し、3 歳以下の乳幼児よりも小児に発生が多く、岡山県でも患者の中心は 5~6 歳です。通常、冬と春から初夏にかけての 2 回流行あるといわれ、岡山県の過去 10 年の発生グラフからもその傾向が見られます。今後、冬に向けて患者増加が懸念される感染症です。
3. **手足口病**の定点あたり患者数はわずかに増加し (定点あたり 0.89 → 1.30 人)、真庭地域では感染症発生レベル 3 になりました (定点あたり 4.00 → 5.50 人)。美作地域 (2.67 → 3.67 人)、岡山市 (1.14 → 1.86 人) でも患者が増え、特に県北部地域で患者の再増加が見られました。
4. **流行性耳下腺炎**の定点あたり患者数は、前週より減少しましたが (定点あたり 1.20 → 1.09 人)、前週感染症発生レベル 1 になった備中地域では、再び感染症発生レベル 2 になりました (2.00 → 3.43 人)。全県では減ったものの、過去 10 年に比べ依然として患者が多いため、感染に注意して下さい。
5. **インフルエンザ**は、今週岡山県では患者報告がありませんでした。
厚生労働省の第 38 週 (9/19~9/25) 速報値によると、全国の定点あたり患者数は 0.02 人と低いものの、鳥取県で 13 名、愛媛県で 16 名の患者が発生しています。また、愛媛県感染症情報センター第 38 週週報によると、幼稚園を中心にインフルエンザ A 型の患者発生が報告されています。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ			RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		★

【記号の説明】

前週からの推移： 2 倍以上の減少 1.1~2 倍未満の減少 1.1 未満の増減
 1.1~2 倍未満の増加 2 倍以上の増加

流行状況： 空白 発生なし ★僅か ★★少し ★★★やや多い ★★★★多い ★★★★★非常に多い

※定点当り患者数について、過去 5 年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を 5 等分し、流行状況の目安として 5 段階で表示しています。

今週の注目感染症

マイコプラズマ肺炎

国立感染症情報センター 第 37 週 (9/12~18) 週報によると、全国集計で『**マイコプラズマ肺炎**の定点当たり報告数が過去 5 年の同時期と比較して最も多くなっている。』と報告されています。岡山県では、第 35 週 (8/29~9/4) に 16 名 (基幹定点 5 医療機関 定点あたり 3.2 人) と急増したものの、その後減少し、2011 年は過去 10 年と同様に推移しています。

例年、晩秋から春にかけて患者が増加しますが、今年全国では夏から患者の増加が見られています。岡山県ではまだ患者発生が少ないものの、今後冬に向けて患者増加が懸念されますので感染予防を心がけてください。

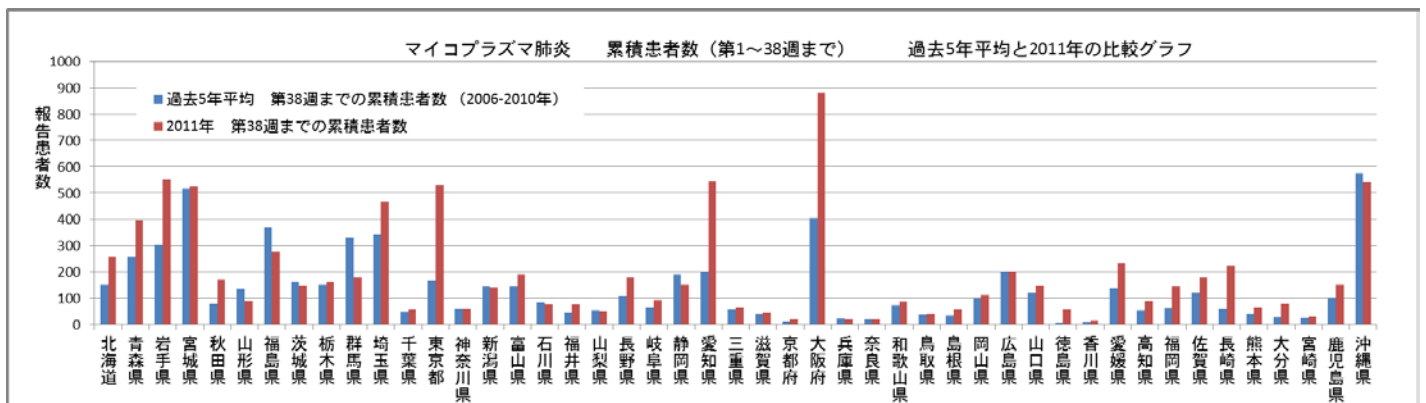
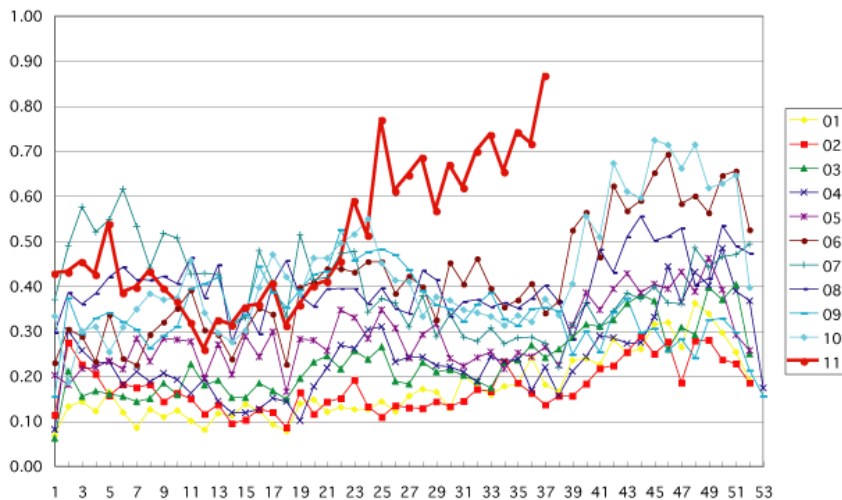
【マイコプラズマ肺炎とは】

マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマという細菌により上気道炎、気管支炎、肺炎などの呼吸器感染症を引き起こす感染症です。肺炎球菌や他の細菌による細菌性肺炎は、乳幼児や 65 歳以上の高齢者に多発するのに対し、マイコプラズマ肺炎は幼児・学童 (5 ~12 歳) や青年に多いのが特徴です。

患者との濃厚な接触、咳によるウイルスの飛沫により感染し、潜伏期は通常 2~3 週間、発熱・体のだるさ・頭痛で発症します。発熱と痰のない乾性の激しい咳が長くつづき (3 ~4 週間)、時に胸痛を伴うこともあります。通常予後は良好ですが、成人や高齢者においては重症化したり、髄膜炎・脳炎などの合併症を起こすことがありますので注意が必要です。手洗いやうがい、マスクの着用、人混みを避けるなど、一般的な感染予防で防ぐことができます。

肺炎のわりに、元気で全身状態も悪くないことが特徴といわれますが、重症肺炎に移行することもありますので、症状が軽くても長引く咳が続く時は早めに医療機関を受診してください。【[国立感染症情報センター 感染症の話 \(マイコプラズマ肺炎\)](#)】

全国のマイコプラズマ肺炎 過去 10 年間との比較グラフ
(国立感染症情報センターHP 第 37 週週報より)



保健所別報告患者数 において **数字** は感染症マップにおいて レベル3
数字 は感染症マップにおいて レベル2 を示しています。

保健所別報告患者数 2011年 39週 (2011/09/26～2011/10/02)

2011年10月5日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	18	0.33	9	0.64	7	0.64	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	4	0.07	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27	0.50	9	0.64	9	0.82	-	-	3	0.43	2	0.50	-	-	4	0.67
感染性胃腸炎	240	4.44	56	4.00	55	5.00	72	7.20	20	2.86	13	3.25	7	3.50	17	2.83
水痘	12	0.22	9	0.64	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	70	1.30	26	1.86	4	0.36	3	0.30	2	0.29	2	0.50	11	5.50	22	3.67
伝染性紅斑	11	0.20	5	0.36	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	1	0.50	3	0.50
突発性発疹	35	0.65	19	1.36	7	0.64	3	0.30	3	0.43	-	-	-	-	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	20	0.37	7	0.50	2	0.18	-	-	8	1.14	-	-	1	0.50	2	0.33
流行性耳下腺炎	59	1.09	9	0.64	15	1.36	5	0.50	24	3.43	4	1.00	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	-	-	1	0.25	-	-	6	6.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	-	-	4	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 39週 (2011/09/26～2011/10/02)

2011年10月5日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	0.07	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27	0.50	9	0.64	9	0.82	-	-	3	0.43	2	0.50	-	-	4	0.67
感染性胃腸炎	240	4.44	56	4.00	55	5.00	72	7.20	20	2.86	13	3.25	7	3.50	17	2.83
水痘	12	0.22	9	0.64	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	70	1.30	26	1.86	4	0.36	3	0.30	2	0.29	2	0.50	11	5.50	22	3.67
伝染性紅斑	11	0.20	5	0.36	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	1	0.50	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	20	0.37	7	0.50	2	0.18	-	-	8	1.14	-	-	1	0.50	2	0.33
流行性耳下腺炎	59	1.09	9	0.64	15	1.36	5	0.50	24	3.43	4	1.00	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	-	-	1	0.25	-	-	6	6.00	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2011年 第39週 2011/09/26～2011/10/02)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	18	3	7	5	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27	-	-	-	1	3	1	8	5	1	1	1	2	1	3
感染性胃腸炎	240	3	10	23	20	20	24	17	21	10	12	7	35	9	29
水痘	12	-	-	2	3	2	3	1	-	1	-	-	-	-	-
手足口病	70	1	5	19	12	13	8	5	4	-	-	1	1	-	1
伝染性紅斑	11	-	1	-	1	4	2	2	-	1	-	-	-	-	-
突発性発疹	35	-	21	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	20	1	2	6	3	2	3	2	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	59	-	-	2	7	11	11	8	8	4	1	4	1	1	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	1	1	1	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	1	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

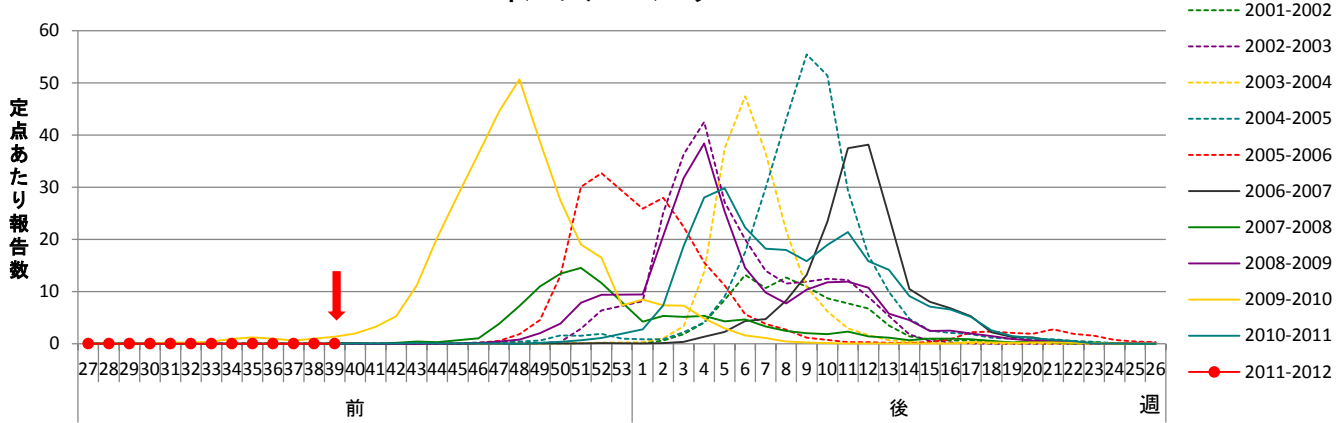
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

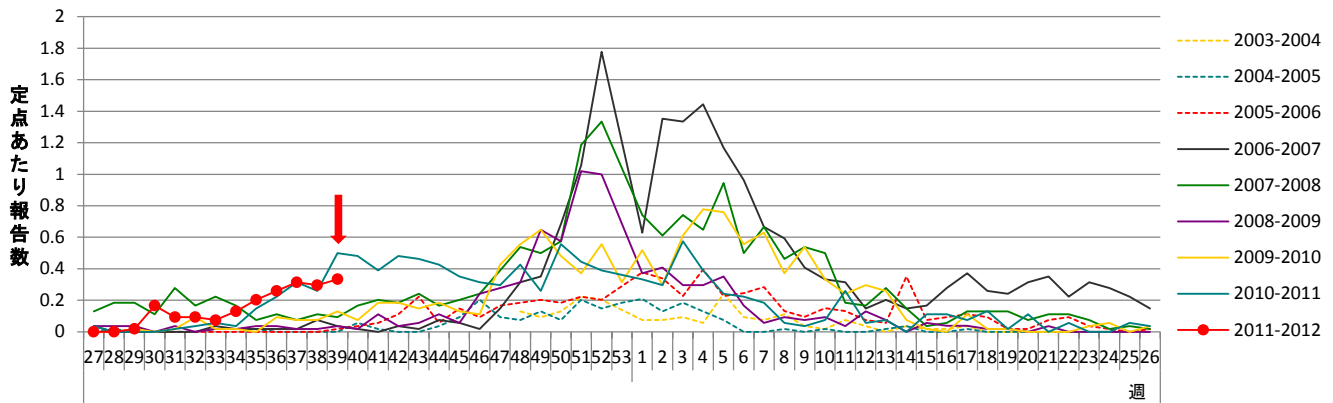
2011年 39週

分類	疾病名	2011		2010	疾病名	2011		2010	疾病名	2011		2010
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	348	352	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	53	66
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	2	1	デング熱	-	-	7	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	1	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-
	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	16	19	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	10	13	ウイルス性肝炎*3	-	7	7	急性脳炎*4	-	2	1
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	1
	後天性免疫不全症候群	-	10	22	ジアルジア症	-	2	5	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	8	9	破傷風	-	2	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	3	風しん	-	1	2
	麻しん	-	4	3		-	-	-		-	-	-

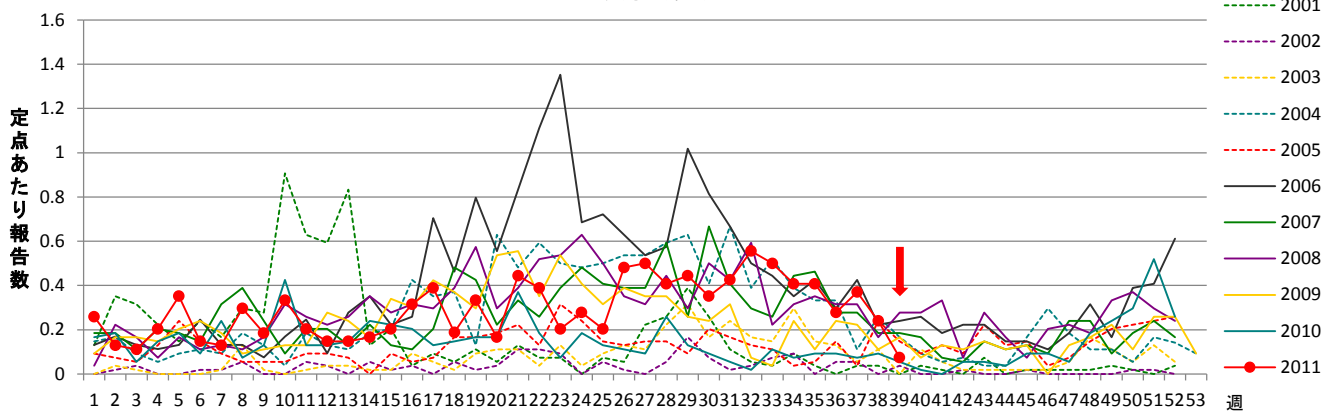
インフルエンザ



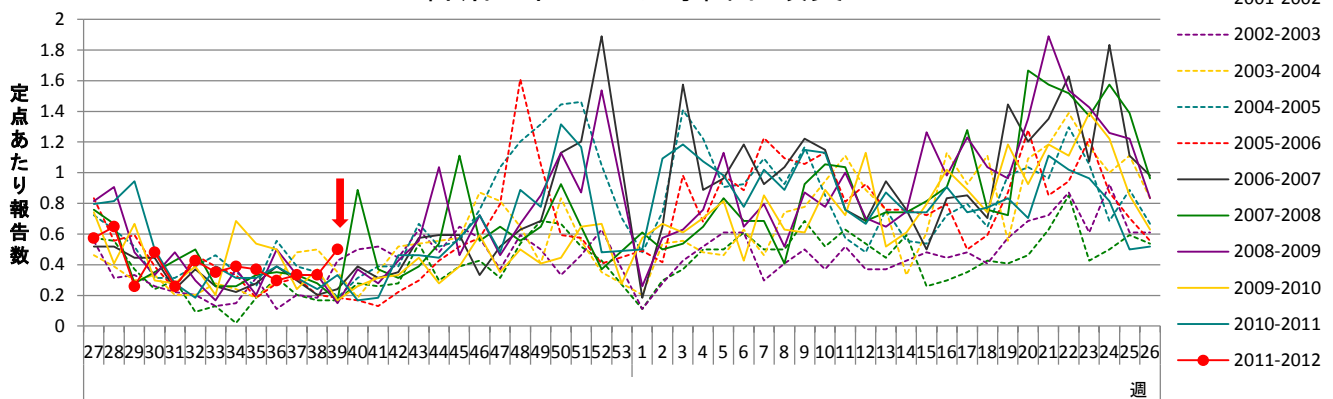
RSウイルス感染症



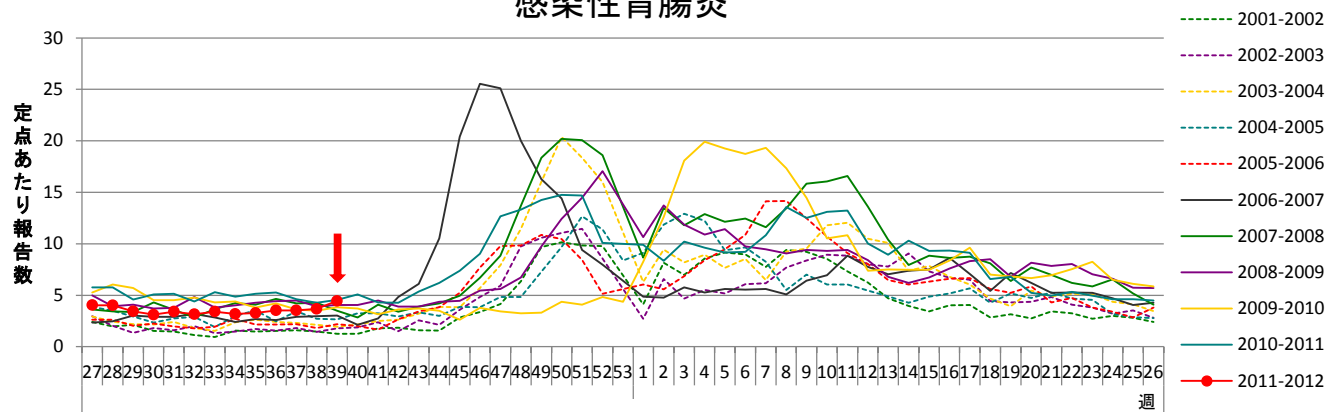
咽頭結膜熱



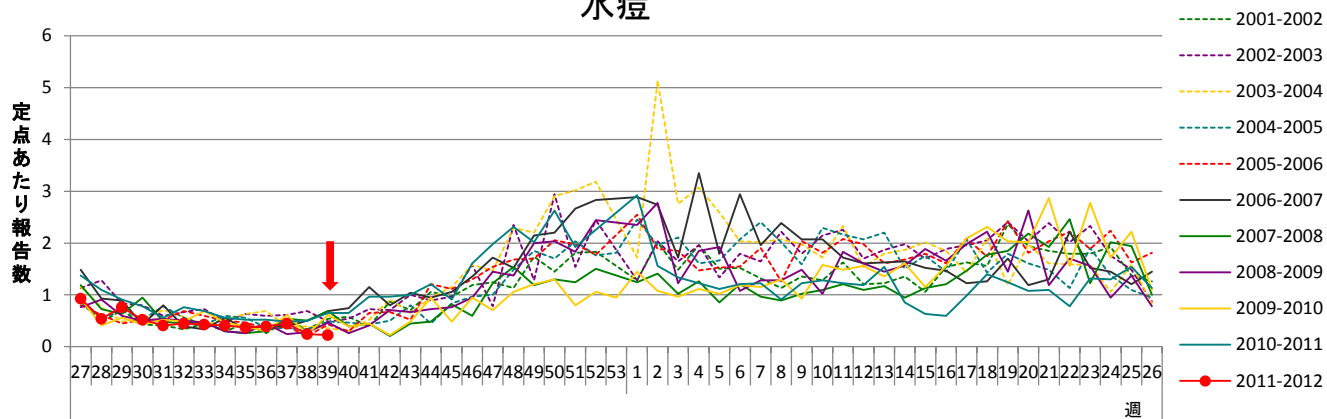
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



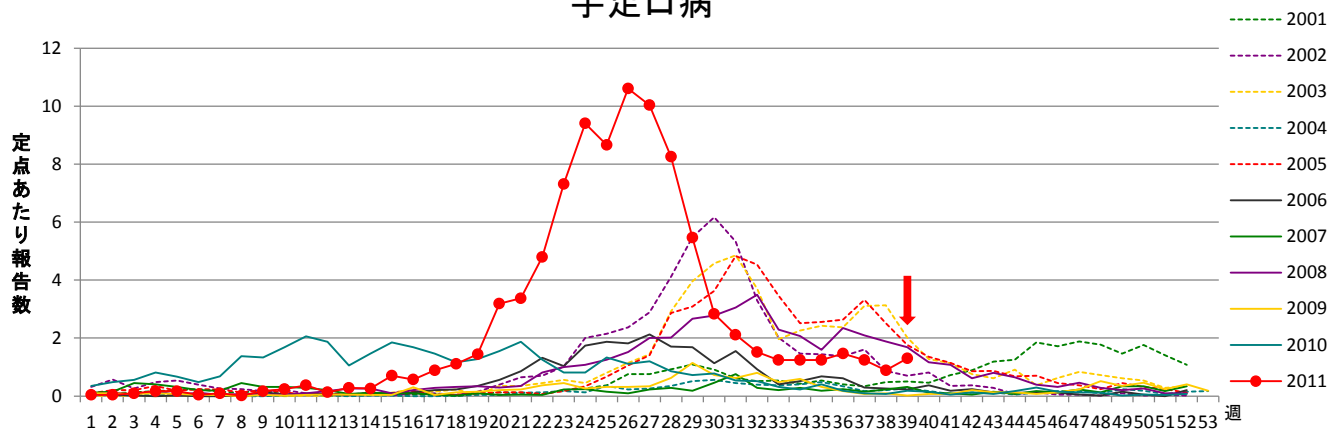
感染性胃腸炎



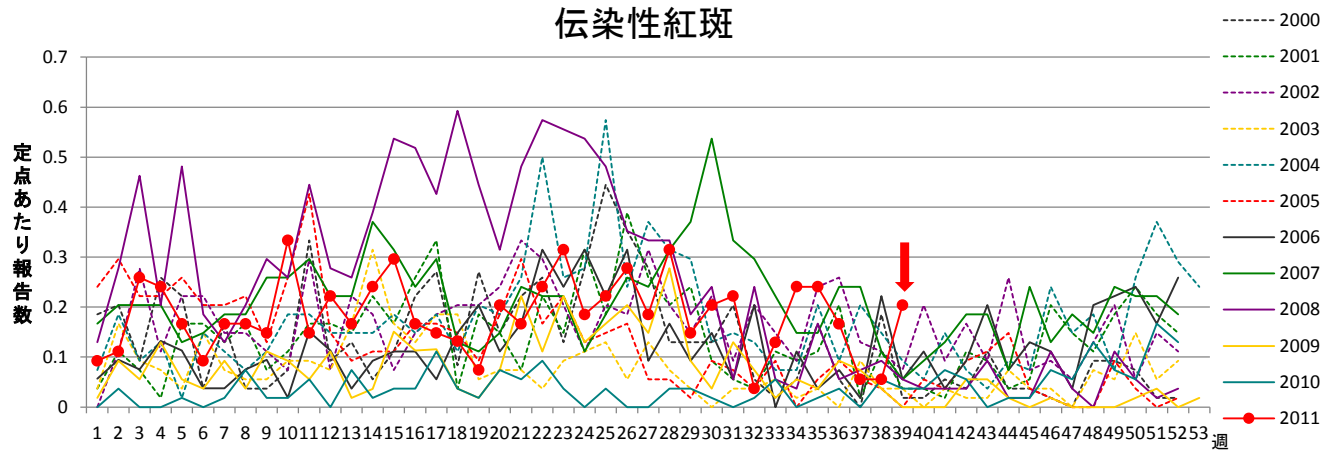
水痘



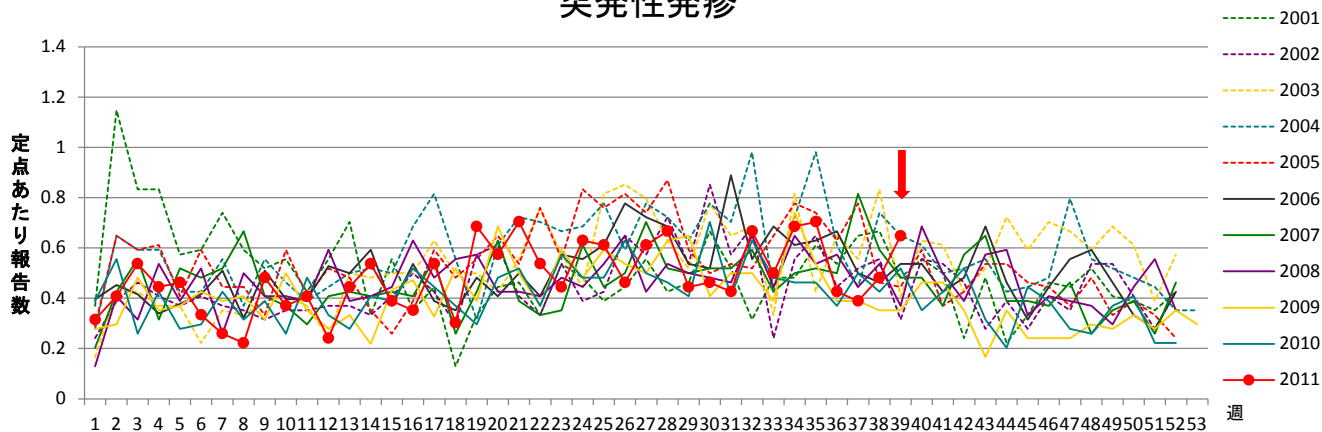
手足口病



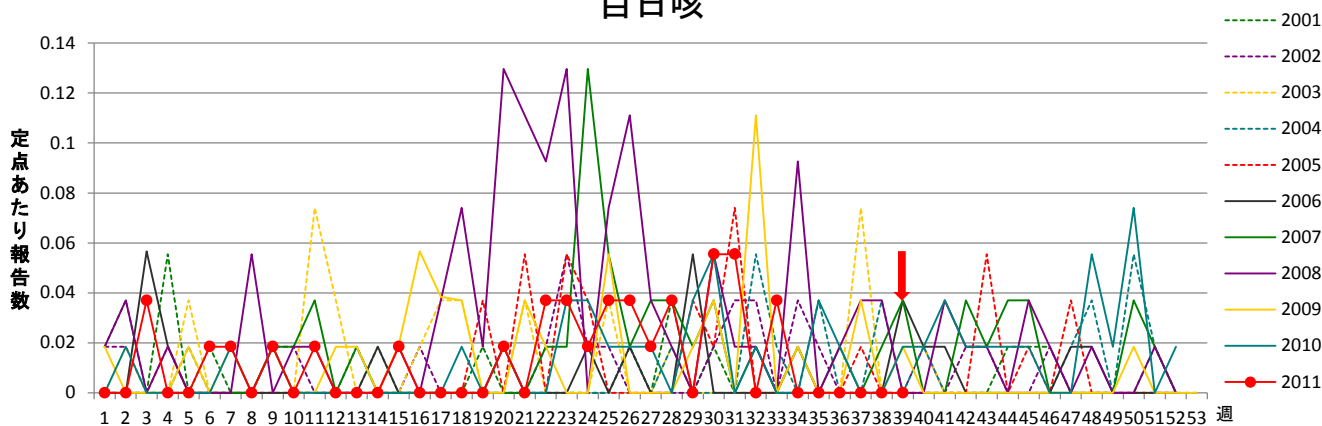
伝染性紅斑



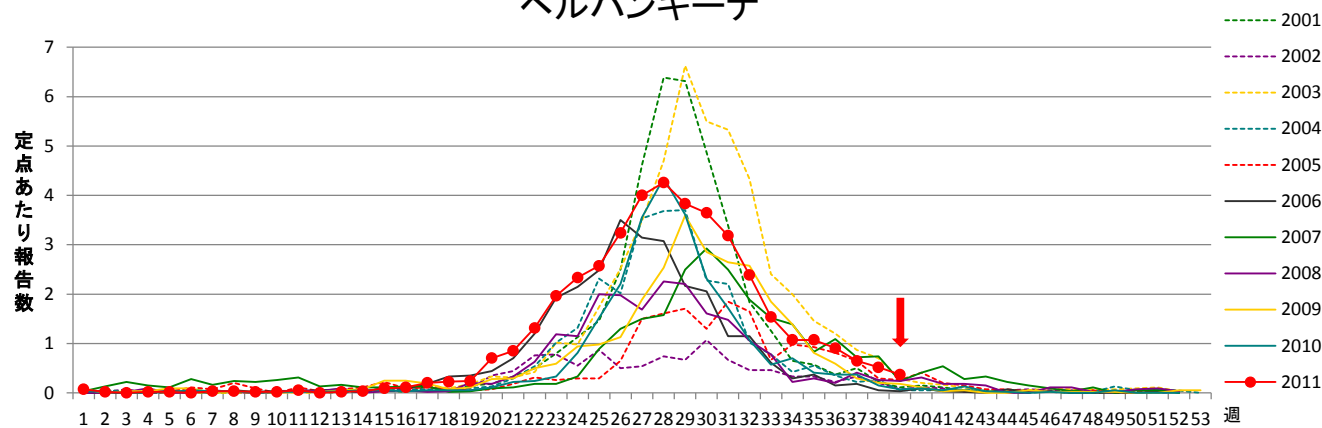
突発性発疹



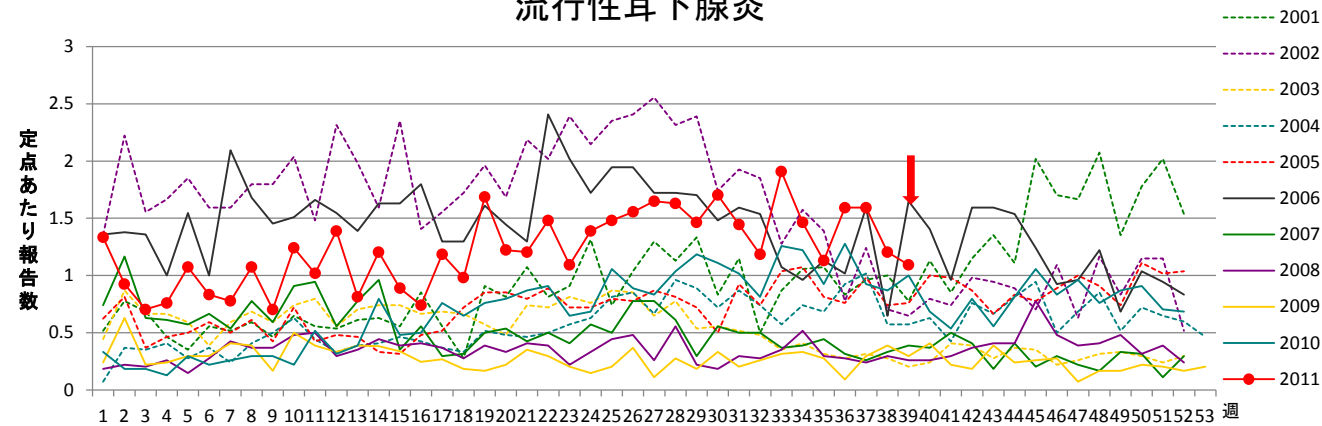
百日咳



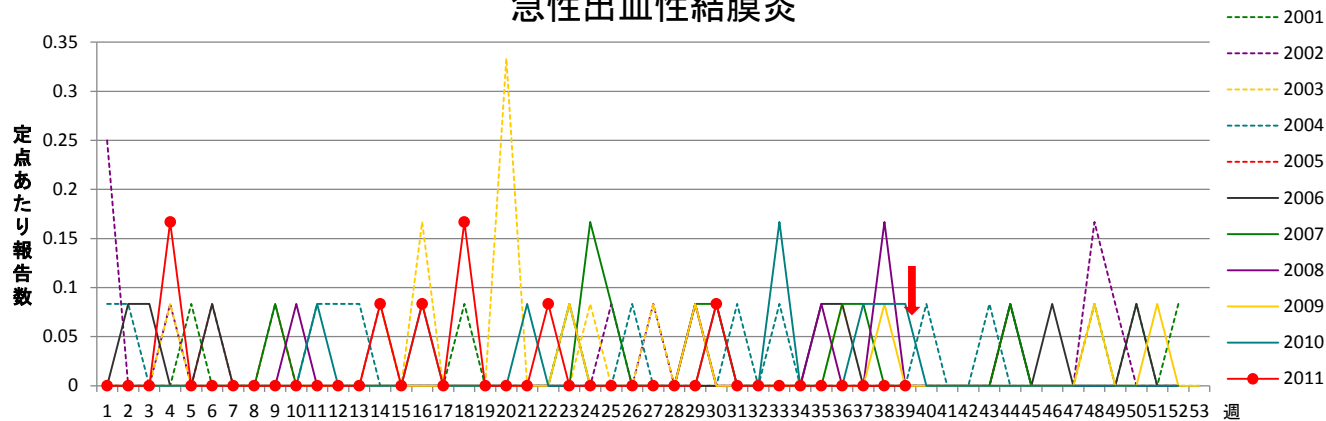
ヘルパンギーナ



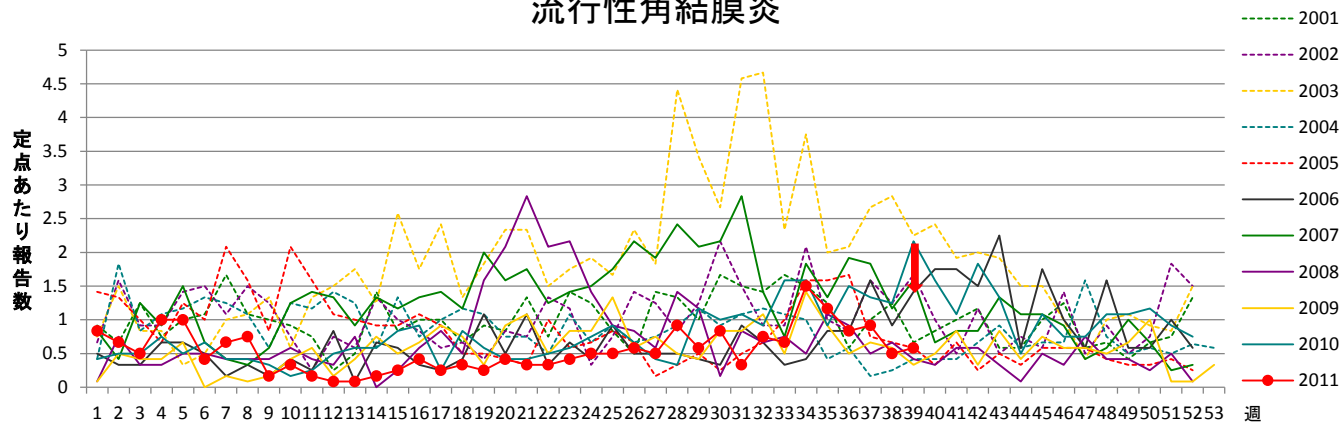
流行性耳下腺炎



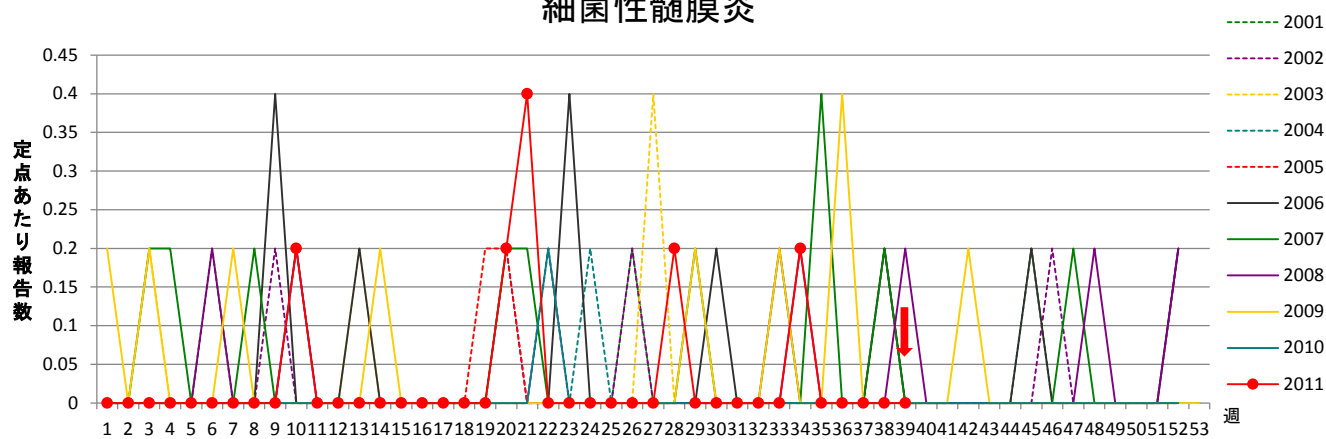
急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎

